士別市における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業最終年度）

士別市地域公共交通総合連携計画の目標

効率的で利便性の高い持続可能な公共交通体系の構築をめざして

地域で安全・安心に暮らし続けることができる環境の確保に向けて、本市の市民生活を支える公共交通であるバス交通を地域全体で支えるとともに、効率的で利便性の高い持続可能な公共交通体系の構築をめざす。

平成２３年度総合事業計画の概要

１）市内循環東西回り線通年実証運行

○ 運 行 期 間 ： H23.4～H24.3
○ 運行ルート ： 士別駅～西小～西栄団地～病院～西條～士別駅
○ 運 行 本 数 ： 1日16便の冬期運行⇒1日9便の通年運行に変更
○ 運　　賃 ： 110円～160円
○ 運行事業者 ： 士別軌道（株）

２）バス停の整備

郊外型

市街地型

３）小型バスの導入

士別市地域公共交通活性化協議会開催状況

６月７日　第１回協議会を開催
協議会委員の変更、H22実績・監査報告、
H23事業計画について協議

９月26日　第２回協議会を開催
小中学生無料化事業、東西回り循環線通年実証運行、
上士別･川西デマンド実証運行、温根別南線の終点変更、
地域公共交通確保維持改善事業について協議
絵画コンクール選考会実施

４）バスの絵画コンクール実施

公共交通に対する理解と関心を深め、子ども達にバスを身近なものとして捉えてもらうことを目的に絵画コンクールを実施。優秀作品をH21に導入したハイブリッドバス車内に展示。

金賞に選ばれた小学５年生の作品

２３年度事業の実施状況（市内循環東西回り線通年実証運行）

1）プロセス、創意工夫

市内西地区には、医療機関や日用品店等がないため、特に高齢者･障がい者の足の確保が課題であった。

↓

東西回り循環線は、11月から3月までの冬期運行であったため、通年で運行してほしいとの要望がこれまで数多く寄せられていた。

↓

冬期のみの運行でも乗車率が低いため、現状の便数のままで通年運行にすると更に赤字額が増加することが予想される。

↓

そこで、1日16便から9便に減便し、通年実証運行を実施。

↓

便数	土別駅前出発時刻 現行（冬期間のみ）
1	8：45
2	9：15
3	9：45
4	10：15
5	10：45
6	11：15
7	11：45
8	12：15
9	12：45
10	13：15
11	13：45
12	14：15
13	14：45
14	15：15
15	15：45
16	16：15

便数	土別駅前出発時刻 実証運行（4月～）
1	8：45
2	9：15
3	9：45
―	―
―	―
―	―
―	―
4	12：15
5	12：45
6	13：15
―	―
―	―
―	―
7	15：15
8	15：45
9	16：15

↓

夏場の利用状況や時刻表の変更等による影響を調査し、市内循環東西回り線の効率的な運行のあり方を検討する。

自治会への説明会
- ･観月自治会：平成23年2月21日(月)
- ･駅南自治会：平成23年2月24日(木)

2）市内循環東西回り線通年実証運行ルート

4）夏期運行実績

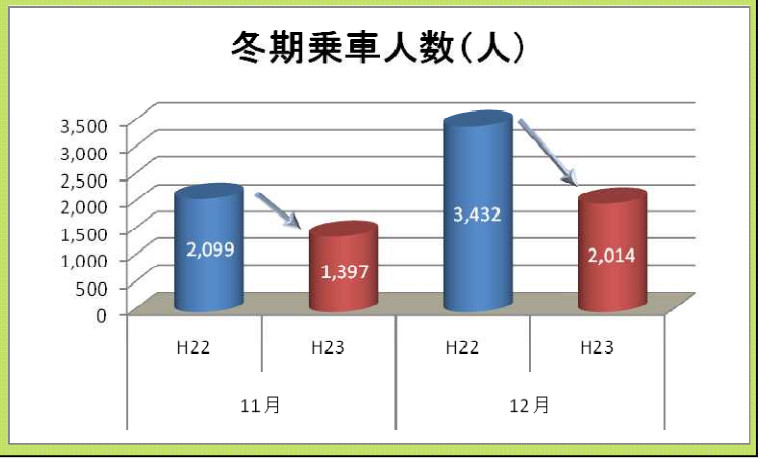
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	平均
H23	1,113	879	825	979	811	848	1,265	960

前年冬期（1日16便）の平均利用者数が１カ月あたり約3,000人であることと比較すると、平均で1/3程度に利用者が減少した。他の路線も同様に夏期の利用者は減少することと、９便に減便していることを考慮しても予想を下回る結果となった。

5）冬期運行実績

冬期でも平均で６割程度に利用者数が減少する結果となったが、9/16便に減便しての運行を考えると、想定の範囲内と言える。

１日９便で通年運行した場合、前年度の1.35倍の経費がかかることが見込まれるため、かかる費用に見合った利用がなかったと言える。



6）今後の課題

- 減便してでも通年で運行してほしいという利用者の声はあるものの、経費に見合った利用がないことが実証された。
- 利用者が少ない原因のひとつに、循環線でありながら10：15～11：45と13：45～14：45の間の７便が運休するため、この間の運行が途切れてしまい、結果的に利用が減少したものと考えられ、減便による経費削減が単純に赤字削減に結び付くものではない。
- 東西回り線と一部重複する市内循環外回り線の夏場の利用者が１割程度減少しており、重複区間の利用者の一部が東西回り線に流れたことを考えると、重複していない西地区の利用者は、実証データ以上に少ないと言えることから、４月以降の運行のあり方について検討が必要である。

自己評価のポイント

・「デマンドバスシステム・乗合タクシーの導入」として予定していた上士別・川西地区の実証運行については、関係者等との協議の結果、実施を見送った。
・市内循環東西回り線の通年運行については、実証運行の結果経費に見合った利用者数が望めないことから、平成24年以降の運行について更なる検討が必要。
・バス停の整備・小型バスの購入については、事業計画に沿って実施することが出来た。
・バスの絵画コンクール、小学生の無料体験乗車等、公共交通の利用促進・利便性向上に寄与する事業を実施することが出来た。

二次評価のポイント

・自己評価のとおり。
・自立性・持続性を考慮した取り組みが行われ、本格稼働移行に向けた必要な検証が行われており、今後の地域に適した交通体系の構築を期待する。特に市内循環東西回り線については、他の市内循環線との重複区間の見直しを行う等、より効率化・利便性の向上を図る必要がある。
・上士別・川西地区の住民の移動手段については、今後の検討を要する。